

学校だより



平成26年8月27日

横浜市立二谷小学校
校長 渡邊 文子

親子のふれあい

学校長 渡邊文子

「校長先生も夏休みのめあてを立てました。本を20冊読むことです。」と、夏休み前の朝会で宣言しました。言ったからには頑張らねばと時間を見つけて読んだ結果、何とか目標を達成することができました。休み前に数人の子どもたちに尋ねたところ、「30分集中して勉強する。」「水泳を頑張る。」等と、自分なりの目標を設定していました。きっと、子どもたちもめあてを意識して頑張ったことと思います。

さて、夏休み中に柳田邦男さんの講演を聞く機会がありました。柳田邦男さんは、作家としてご活躍ですが、絵本や読書についても精力的に活動をしていらっしゃいます。講演のタイトルは「大人のきづき、子どもの成長～絵本は心を育てる特効薬～」。その講演の中で素敵な写真が紹介されました。佐賀県の伊万里市で取り組んだ「読書のある風景」という写真展の作品です。お母さんがわが子に読み聞かせをしている場面。その子どものまなざしは、というと、絵本ではなくお母さんに向けられています。自分に一生懸命に読み聞かせをしてくれているお母さんをちらっと見ているのです。本の読み聞かせも楽しいのですが、お母さんが自分に心に向けて共に時間を過ごしてくれていることが、子どもには何よりも嬉しいのかもしれない。親子の温かな気持ちの通い合いが伝わってくるような素敵な写真でした。

その写真を見ながら柳田氏はこう話されました。「親が本気だと、子どもも安心して本に親しむ。」なるほど、そのとおりかもしれないと思います。子どもは実によく大人のことを見ているものです。家族が自分に心に向けてくれているという安心感が、子どもの行動を支え、成長させるということでしょうか。

夏休み最後の日曜日に行った「親子木工教室」でも、本気のお父さんお母さんと、親子のすてきなふれあいの姿をたくさん拝見することができました。親子で一緒に一つの物を作り上げる作業が、本当に楽しそうでした。少しぐらい失敗した部分があっても、親子で作った作品は世界に一つの大切な物です。後で、完成した物を見ながら会話も弾むにちがいありません。

夏休みが終わりました。子どもたちは、家族との様々なふれあいの思い出をつくって登校してくることでしょう。ひと月の間に心身ともに成長した子どもたちと、また楽しく充実した学校生活をつくっていききたいと思います。



校庭の花壇のひまわり